

Hondaが「健康経営優良法人2026（ホワイト500）」に認定

Hondaは、優良な健康経営^{※1}を実施している企業を評価する「健康経営優良法人認定制度2026」において、大規模法人部門上位500法人に冠される「ホワイト500」に認定されました。



「健康経営優良法人認定制度」は、経済産業省と日本健康会議^{※2}が認定する顕彰制度です。特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業などの法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業や金融機関などから社会的な評価を受けることができる環境を整備することを目的としています。企業の規模に応じて「大規模法人部門」と「中小規模法人部門」の2つの部門を設けており、評価は、企業の経営理念・方針、組織体制、制度・施策実行などをもとに実施しています。

Hondaには、「安全なくして生産なし」という理念があります。これは、従業員一人ひとりが心身ともに健康で安全に力一杯働くことができる、ということが人としていかに大切に尊く、生き活きとした職場の中から初めてお客様に喜んでいただける良い製品が生まれる、ということの意味します。こうした理念や方針が従業員へも浸透し、会社全体としての取り組みにつながっていることが今回の認定に至ったと受けとめています。

※1 従業員などの健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践すること。経営理念に基づき、従業員の健康保持・増進に取り組むことで、組織の活性化や生産性の向上、企業価値の向上などの効果が期待される。「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標

※2 少子高齢化が急速に進展する日本において、国民一人ひとりの健康寿命延伸と適正な医療について、民間組織が連携し行政の全面的な支援のもと実効的な活動を行うために組織された活動体

<Hondaらしい健康経営を目指した取り組み>

■全社の取り組み

Hondaは、社長が「強い個人のベースは健康であることにあり、一人ひとりが健康保持増進にチャレンジャーであれ」というスローガンを掲げており、健康経営は人的資本経営の土台をなすものと考えています。健康領域の重要課題と位置づけているメンタルヘルスや、性差に関わらない更年期については、専門家を招き、役員と社内の看護師・保健師が座談会を実施し、幅広い分野の知識やノウハウなどの学びを深めています。座談会を通じてそれぞれの想いを語り合うことで、健康の大切さについて社内外にメッセージを発出しています。



「性差に関わらない更年期障害」座談会の様子

(順天堂大学大学院 堀江重郎主任教授、Honda 貝原典也 取締役代表執行役副社長、Honda 産業保健職が参加)

■職場の健康への取り組み

Hondaは、働く上で心身の健康保持・増進をするためには、労働時間や働き方、職場の人間関係などが重要な要素であると考えています。職場での健康への取り組みとして、従業員のメンタルヘルス不調を未然に防止する目的で導入しているストレスチェックの結果を本人へフィードバックすることや、健康診断の事後措置対応をしています。日ごろからコミュニケーションの場を通じて、組織やチームで自分の意見や質問を恐れずに表現できる「心理的安全性」を改善し、誰もが生き生きと活躍できる、風通しの良い職場づくりに取り組んでいます。

■個人の健康への取り組み

Honda は、従業員一人ひとりが生活習慣病予防に向けて設定された5つの管理項目（栄養、休養、運動、喫煙、飲酒）に紐づけられたイベントや、心の健康の保持・増進に向けて行動しています。従業員がリアルとバーチャルを組み合わせた教育機会・啓発活動に参加することで、自ら「守る」健康から「創る」健康へと意識を変化させ、行動していきます。



将来の疾病罹患の予防に向けた集合研修の様子
(講師：社内産業保健スタッフ、対象：30歳・40歳・50歳の節目の従業員)

Honda はこれからも“存在を期待される企業”であり続けるため、チャレンジ・融合・成長のサイクルを高速で実行し、一人ひとりの夢を起点とした価値創造を実現していきます。

Honda の健康経営サイト：<https://global.honda/jp/health-management/>